

くしかみじょうこうえん  
具志頭城址公園にある  
「土佐之塔」

高知県出身の戦没者18,545柱が奉られる慰霊碑。敷地内が高知県所有地となっており、毎年11月には遺族会による慰霊祭が開催されている。



戦争遺跡を  
後世に

戦争遺跡公園  
又ヌマチガマ



全長約500メートルの自然洞窟。沖縄戦で第24師団第一野戦病院の「新城分院」として使用されていました。昭和20年の4月下旬に白梅学徒5人が配属され、約1千人の負傷兵がひしめく暗いガマの中で、手術や包帯交換など過酷な任務に就いていました。

同6月3日に分院を閉鎖。4日には本隊も解散したため、学徒たちは南部の激戦下にさまようことになりました。現在、ガマは整備され、今年の7月から見学が可能となっています。



▲包帯も乾かないような湿った洞穴内で負傷兵の処置が行われていた(又ヌマチガマ)

具志頭城址公園  
クラシンウジヨウ

米軍の港川海岸上陸に備え、日本軍の陣地壕として人員が配備された自然洞穴です。ちよつと、具志頭城址公園の下にあります。全長約150メートルで、壕中にはカマド跡のある炊事場、坑木のある坑道、壁にはロウソク台などが残っています。南東側に隣接する岩場には、コンクリー



▲銃を構えるための銃眼が残る

ト製の銃眼が設置され、鉄の骨組みが現在も残っています。銃眼からは南部海岸一帯を見渡すことができます。

香南市と  
八重瀬町

交流の始まり

平成18年から姉妹都市交流を行っている香南市と沖縄県八重瀬町。歴史をさかのぼると昭和41年、具志頭城址公園に建立された「土佐之塔」へ毎年、慰霊に訪問していたことから始まりました。

沖縄戦の激戦地であったこの地で高知県出身の兵士が1千人近く戦死したと言われていることから、土佐之塔は八重瀬町に建立されました。

お互いのまちを

昭和56年に塔建立15周年を迎えたことをきっかけに、高知県と具志頭村(現在は合併して八重瀬町)の交流団がお互いのまちを訪れました。

双方の民家に泊まり合ったことがきっかけで、相互交流が行われることになりました。それにより、児童生徒が地域を飛び出し広い視野を持つことができ、お互いの自然・歴史・文化を学ぶことができました。また、産業・スポーツ・行政の交流などを通じて親交を深め

香南市内の中学校が修学旅行に沖縄を訪れた際には、平和学習の一環として土佐之塔で平和集会を行っています。今年は3校が訪問しました。



各中学校が折り鶴の奉納や平和宣言を行う



先輩たちが植えた平和植樹の話聴く



八重瀬町の金城隆雄教育長から「さんびん茶」とお菓子をいただく野市中学生

修学旅行の拠点に

そのため、平成5年旧町村(野市町と具志頭村)で姉妹都市提携が結ばれ、現在も交流が続いています。

現在の交流

現在は、香南ふれあい祭りでの「物産交流」や、行政職員を向けさせた相互の文化や風土を学ぶ「人事交流」や、児童生徒を対象に香南市と八重瀬町を毎年交互に訪問し合う「児童生徒交流会」などが行われています。

子どもたちの交流は今年で34回目。8月上旬には、八重瀬町の子どもたちが高知県を訪れ、川遊びや稲刈り体験などを香南市の子どもたちと一緒に行う予定です。

戦後70年 戦争のあとに残るもの

4月に八重瀬町役場の自席に着いたとき、庁舎パソコンの掲示板に「不発弾処理作業に係る役員について(依頼)」という文字が目に残りました。八重瀬町内に5インチ艦砲弾1発が発見され、現地処理を行うことを告げていました。対策本部が開設され、半径100メートル内へ一切の住民の立ち入りを禁止し、作業には職員も参加するようになっていました。まだ県内に2,000トンもの不発弾が眠る沖縄では不発弾処理というのは珍しくないのかもしれませんが。

仕事の戸籍発行事務では、戦死した家族の除籍簿を取るお客様がつぶやいていました。「これで平和の礎に名前を刻むことができる」と…。

残したものがたくさんある戦争から70年。それがきっかけで結ばれた絆もあることを忘れてはいけません。

八重瀬町役場 姉妹都市人事交流職員 田中菜生

！見学  
希望者は

沖縄戦の戦争遺跡としてのガマは、倒壊の恐れもあるため大変危険です。必ず指定管理者に連絡を取り一緒に入りましょう。

▼両ガマ(壕)の入場申込み  
指定管理者  
NPO法人自然体験学校まで  
TEL:098-998-0330

